孝忠信智礼義仁

寺子屋の『師匠』たち(左上から斉藤俊之 さん・小塚順一さん・佐々木哲弘さん、左 下から堤厚さん・小林さん・武田光廣さん)

切ですが、私たちは、 学力の向上に重きを置くことも大 のある講義が行われています。 日本の格言などを取り入れた特色 の歴史をひもとき、当時の教育の 部を反映させた『寺子屋体験学 小林さんは、 では、武士道や孔子の教え、 もっと子どもたちに伝え 自然に対する感受性 「教育においては 日本古来の

もっと多くの方に

剣に講義を聴くそうです。

昔の人の心遣 目を輝かして真

くれました。 の方に来てもらいたい」と話して 寺子屋体験学習が始まってから 小林さんは、 「もっと多く

手で『もの』をつくりあげる感動 心』を伝えています。 の方に伝えていきたいですね」。 を与えてくれます。少しでも多く は、忙しい現代人の心にうるお 師匠たちは、今日も『日本人の 「江戸時代の心や感性、 自分

ばん』だけを学ぶのではなく、 だと思います」。 とえば、孔子をはじめとした先人 存する限られた文献から移住当時 冢が移住してきてから約⅓年。 などを学んでいました。これが、 の教えである『仁義礼智信忠孝』 『日本人の心』を形成していたの 宮城県白石市から登別市に片倉 寺子屋では、 『読み書きそろ げ』や、ナスの花にたとえて親 や情緒に感動し、 る子どもたちは、 を多く紹介しています。教授され 茄子の花は千に一つも無駄はない 忠告の大切さを説く『親の意見と いない外側に傘を傾ける いる人同士がすれ違うときに人が します。 寺子屋の講義では、傘をさして 日本古来の作法やことわざ

いきたいと思っています」 と話

▲子どもたちに伝授 する小林さん





まさ あき

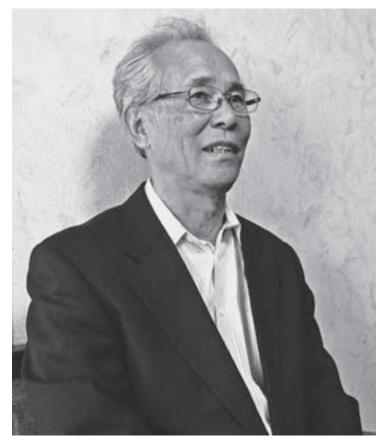
『傘かし

江戸時代に全国的に発展した私設の教育機 関である寺子屋は、庶民の日常生活にとって 実用的な教育を行っていた施設です。その当時の教育の一部を取り入れ、子どもたちに日本古来の文化や道徳、登別市の歴史を伝える 事業が登別伊達時代村で行われています。

登別伊達時代村の『寺子屋体験学習』は、 で日本の格言やことわざの講義を 『ものづくり工房』でお手玉作りや魚 拓などを体験する団体客向けの体験プログラ 小学生の修学旅行などを中心に、毎年 2千人以上の方が参加しています。

寺子屋体験学習で『師匠』を務めるのは、 教員経験者、登別市文化協会や郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の会員、芸術・文化の造詣が深く積極的に活動を展開してい る方たち。これまでの経験や知識を生かし、 登別伊達時代村と連携して、観光産業や地域 文化の振興に尽力しています。 今回は、登別伊達時代村寺/屋・ものづく

り工房の顧問を務める小林さんに、寺子屋体 験学習への思いを伺いました。



昭和14年、兵庫県西宮市生まれ。77歳 長年、教員として活躍。退職後、登別市文化協会会長(現在 は顧問)などを務めていたときに、登別伊達時代村から寺子 屋事業実施の相談を受ける。仲間を集め教本作成などを行い、 現在は寺子屋の『師匠』の一人として活動しているほか、地 域の歴史の研究や短歌でふるさとを詠むなど、さまざまな文 化活動を行っている。